

事前評価調書

| | | | |
|------------|---|---|--------------------------------------|
| 事業名 | | 農道整備事業(泉南地区) | |
| 担当部署 | | 泉州農と緑の総合事務所地域政策室(連絡先 072-439-3601) | |
| 事業箇所 | | 泉南市 | |
| 事業概要 | 目的 | 南河内地域から泉州地域に至る基幹的農道網の一環として、堺市以南の泉州地域山間部の農地約4,000haを受益地とする「泉州基幹農道」(旧緑資源機構主体)が平成20年3月に事業終了。しかし、泉南市域においては、路線中央の林道お菊松線から高倉線までの約1.3km区間が未施工となっており、本来の事業効果が発現できていない。 本事業は、上記欠落部分をつなぎ補完することで、泉南市域はもとより泉州地域の農産物の効率的な輸送と生産の振興ならびに地域の活性化を図ることを目的とする。 | |
| | 内容 | 道路改良工 延長L=1.3km 幅員W=7m | |
| | 事業費 | 全体事業費：約 5.5億円(約420千円/m) (負担区分：国50%、府25%、市25%) (内訳) 調査費等約0.7億円 用地費 約1.2億円 工事費 約3.6億円 | |
| | | 【事業費の積算根拠】 基本設計により路線、断面を設定。これに基づく数量計上の上、積み上げにより事業費を算出。 | 【工事費の内訳】 道路工 約2.7億円 舗装工 約0.9億円 |
| | 事業費の変動要因 | 【他事業者との協議状況】泉南市とH21林道接道等協議予定。 【今後の事業費変動要因の予測】 地質調査の結果、法面保護工法の変更追加が発生する可能性がある。 現地調査の結果、構造物追加の可能性はある。 | |
| | 維持管理費 | 円/年(大阪府土地改良財産処分要綱により泉南市に無償譲渡予定) | |
| | 関連事業 | 農用地総合整備事業泉州東部区域(泉州基幹農道)(本地区に接続し、一体的に機能を発現する。) | |
| 上位計画等の位置づけ | おおさか農空間づくりアクションプラン(平成17年3月) 泉南農業振興地域整備計画(平成7年3月策定) | | |
| 優先度 | 関連事業としての、農用地総合整備事業泉州東部区域が平成19年度に完了。本路線の完成により一体的な機能の早期発現が急務。 | | |
| 事業の進捗予定 | 事業段階ごとの進捗予定と効果 | 平成21年度 国庫補助事業として採択(農林水産省)・用地調査等着手 平成22年度 実施設計・用地取得 平成23年度 工事着手 平成26年度 工事完了 | |
| | 完成予定年 | 平成26年度 | |

| | | |
|-------------|-------------|---|
| 事業を巡る社会経済情勢 | 事業目的に関する諸状況 | <p>【周辺道路の現状】 泉州地域は山間部から海岸への距離が短く、山間部を東西に横断する道路に乏しい。既設国道170号線についても熊取町域以北までであり、泉南市域から泉佐野市域にかけての山間部に物流の弱点がある。</p> <p>【関連事業=泉州基幹農道】 当初、旧緑資源機構により路線計画されていたが、近傍における希少種(オオタカ)のモニタリング調査等による工期延伸により、事業工期内での完了が困難となったため、当該部の事業実施については、別途関連事業として、機構事業完了後実施することとなった。 このため現状泉南市域で施工済の「六尾工区」「新家工区」は計画路線中央部が欠落した形態となっており、現状では狭小な現況林道等を迂回使用せざるを得ず、早期の機能補完が必要とされている。</p> <p>【受益面積】 104.2ha(農振農用地62.9ha その他41.3ha)</p> <p>【計画道路諸元】 延長1,253m・全幅7.0m(車道幅員5.5m)・舗装厚0.35m</p> <p>【現場条件】 総延長1,253mの内、686mは現況林道の拡幅、567mはかつて公共事業で設置した工事用仮設道路跡地を路線修正して活用する。</p> |
| | 地元等の協力体制 | <p>予定管理者である泉南市はもとより、土地改良法上の事業申請者でもある地域農家の全面的な協力が得られる見込みである。 土地所有状況については登記簿等既存資料で確認済み。事業着手後の用地測量により正確な状況を把握予定。また、管理状況は泉南市から聞き取り済み。</p> |

| | | | |
|---------|------------------|---|--|
| 事業効果の分析 | 費用便益分析 | <p>具体的な便益内容</p> <p>・ B / C = 1.30</p> <p>便益総額 B = 7.08 億円</p> <p>営農走行経費節減効果 3.09 億円</p> <p>一般走行経費削減効果 4.10 億円</p> <p>維持管理費節減効果 0.11 億円</p> <p>総費用 C = 5.45 億円</p> <p>建設費 4.48 億円</p> <p>評価期間における再整備費 1.83 億円</p> <p>評価期間終了時点の資産価額 0.86 億円</p> | <p>備考</p> <p>【算定根拠】</p> <p>新たな土地改良の効果算定マニュアル(H.19.3策定)により算出。</p> <p>便益：事業実施した場合と実施しない場合の農道事業の主要効果とされる「食料の安全供給の確保に関する効果」及び「農村の振興に関する効果」について、事業を実施した場合としない場合に要する走行経費の節減等を計上。工事完了後40年間の積算効果額を現在価値化し算出。</p> <p>費用：全体事業費に加え工事完了後40年間の再整備費を現在価値化し算出。満了時の資産価額を控除。</p> <p>受益者：受益農地耕作農家、地域住民等</p> |
| | その他の指標 (代替指標) | | |
| | 定性的分析 | <p><安全・安心> <活力> <快適性> <その他> など、</p> <p>営農の安定化により、地域農業の活力が持続発展できる。 活力</p> <p>安全・安心な生産物をよりすみやかに消費者に届けられる。 安全・安心</p> <p>南北方向の既設狭小路線による混雑を回避し、快適な通交が確保される。 快適</p> | |

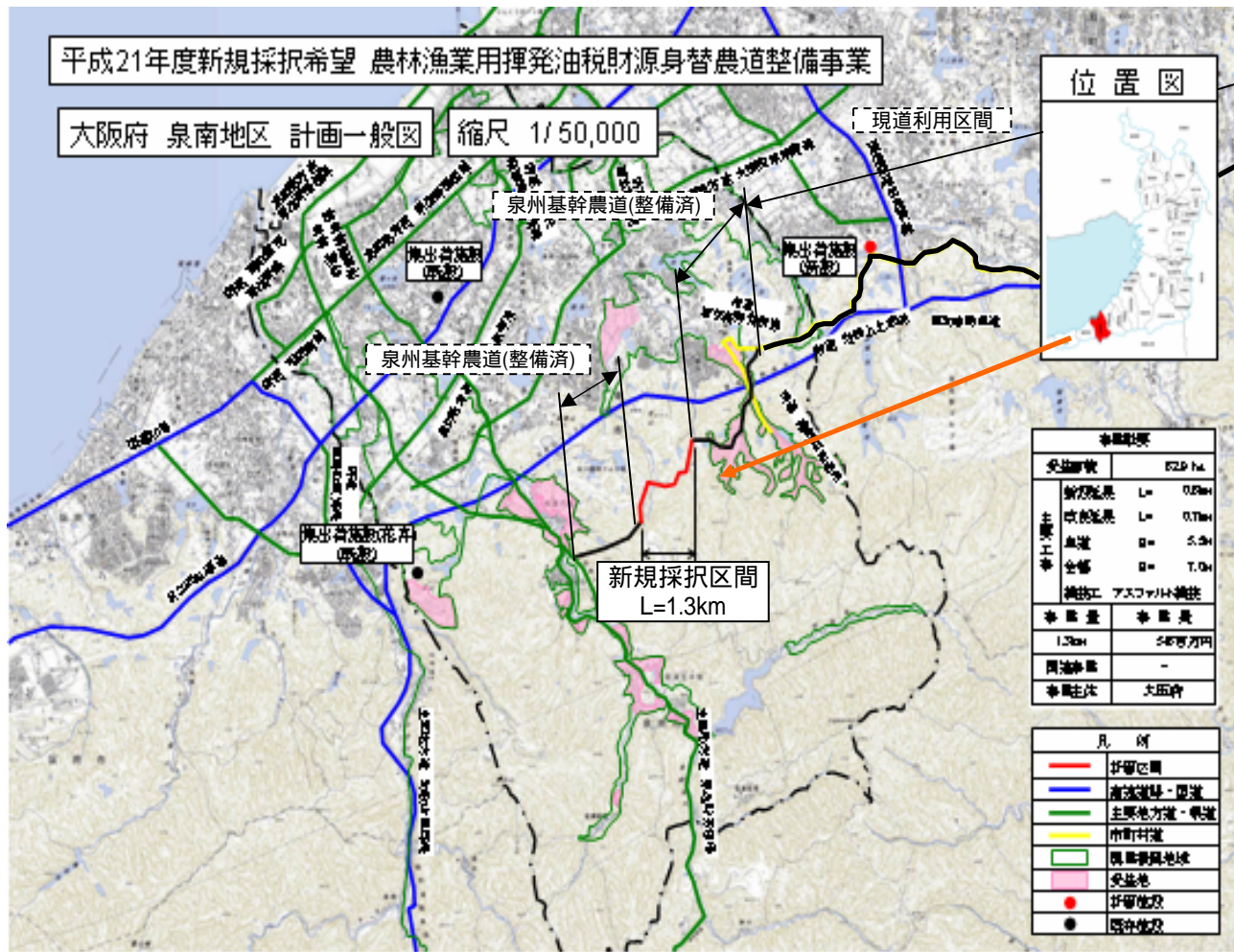
| 自然環境等への影響と対策 | <p>計画路線のうち約0.7kmは現況林道の拡巾である。また、約0.6kmについては、過去に公共事業の仮設道路として利用されていた跡地(通路形状野地形が残存している)の活用を図ろうとするものである。</p> <p>このため、自然環境に与える影響は最小限にとどまると予想されるが、過去の調査で近傍にオオタカの営巣地があったことが確認されており、モニタリング調査を実施しながら、専門家の意見を聞くこととする。</p> <p>工事実施に際しては、低排出ガス機械を使用し、環境に配慮した施工に努める。</p> <p>近傍公共事業への流用などにより、建設発生土の地区外排出抑制に努める。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|--|-----------------|------|----|----|------|-----|-----|-----|-----|---------------|----------------|-----------------|-------|-------|---|---|--------|---------------|----------|-----------|---------|------------|------------------|----------------|----|---|---|---|------|---|---|--|--|
| | 代替案との比較検討 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現道拡巾</th> <th>新設</th> <th>改良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用地買収</td> <td>面積大</td> <td>面積大</td> <td>面積小</td> </tr> <tr> <td>工事費</td> <td>大 拡幅延長大のため</td> <td>大 トンネル必要のため</td> <td>小 旧仮設道路活用のため</td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>拡幅分が増</td> <td>増</td> <td>増</td> </tr> <tr> <td>時間短縮効果</td> <td>距離短縮がないため、効果小</td> <td>距離短縮が最も大</td> <td>左の2案の中間程度</td> </tr> <tr> <td>周辺環への影響</td> <td>現道利用のため影響小</td> <td>大幅な地形改編が必要のため影響大</td> <td>現況地形を活用するため影響小</td> </tr> <tr> <td>延長</td> <td>大</td> <td>小</td> <td>中</td> </tr> <tr> <td>総合判定</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 現道拡巾 | 新設 | 改良 | 用地買収 | 面積大 | 面積大 | 面積小 | 工事費 | 大 拡幅延長大のため | 大 トンネル必要のため | 小 旧仮設道路活用のため | 維持管理費 | 拡幅分が増 | 増 | 増 | 時間短縮効果 | 距離短縮がないため、効果小 | 距離短縮が最も大 | 左の2案の中間程度 | 周辺環への影響 | 現道利用のため影響小 | 大幅な地形改編が必要のため影響大 | 現況地形を活用するため影響小 | 延長 | 大 | 小 | 中 | 総合判定 | × | × | | |
| | 現道拡巾 | 新設 | 改良 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 用地買収 | 面積大 | 面積大 | 面積小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工事費 | 大 拡幅延長大のため | 大 トンネル必要のため | 小 旧仮設道路活用のため | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 維持管理費 | 拡幅分が増 | 増 | 増 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 時間短縮効果 | 距離短縮がないため、効果小 | 距離短縮が最も大 | 左の2案の中間程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 周辺環への影響 | 現道利用のため影響小 | 大幅な地形改編が必要のため影響大 | 現況地形を活用するため影響小 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 延長 | 大 | 小 | 中 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総合判定 | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他特記すべき事項 | 特記事項なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

評価結果

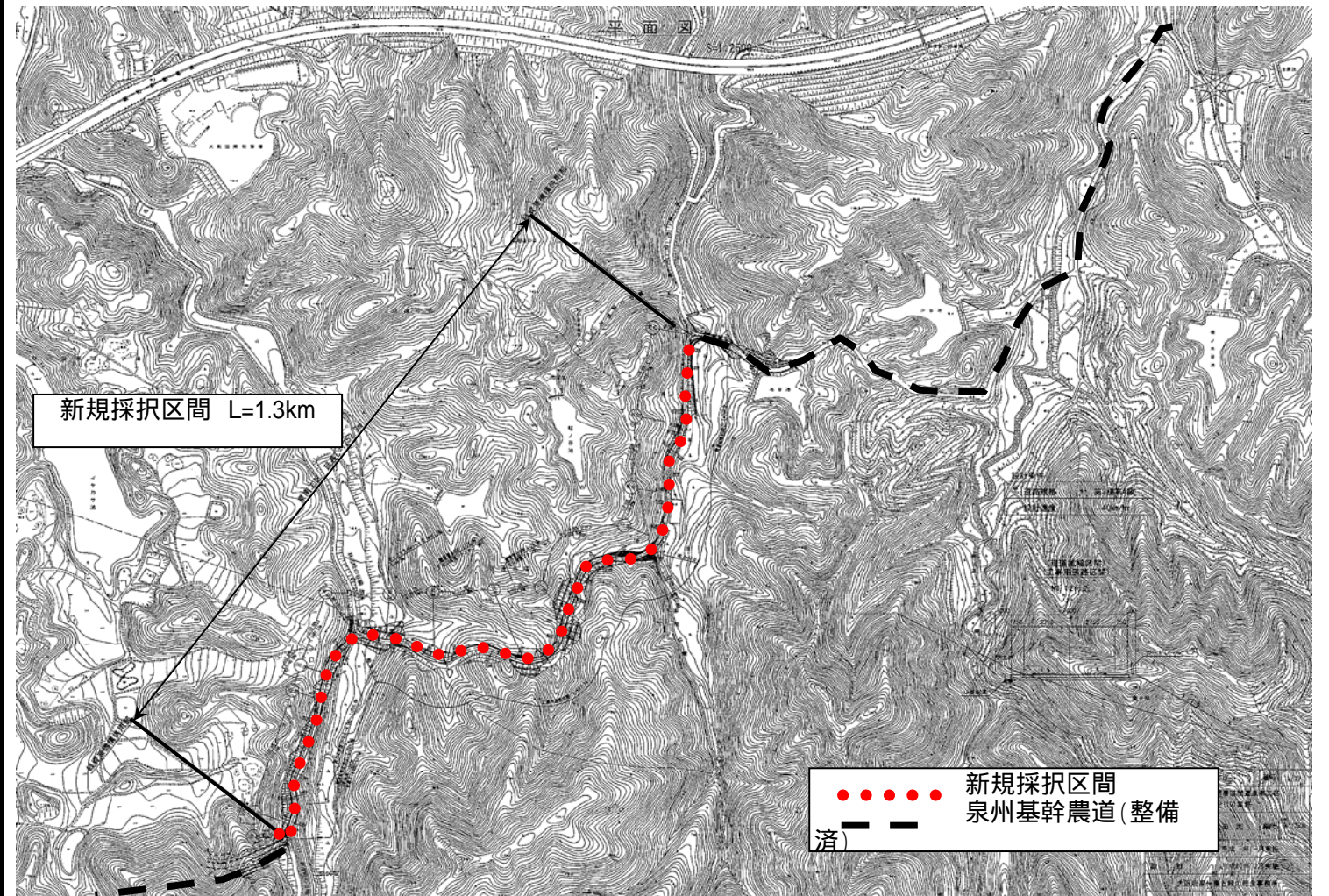
「事業実施は妥当」

泉南市域はもとより泉州地域の農産物の効率的な輸送と生産の振興ならびに地域の活性化を図るなどの効果が認められるとともに、関連する緑資源機構営農用地総合整備事業における事業効果を発現させるため、事業の早期実施の必要性が認められることから「事業実施」とする。

事業箇所図



平面図



標準断面図

